

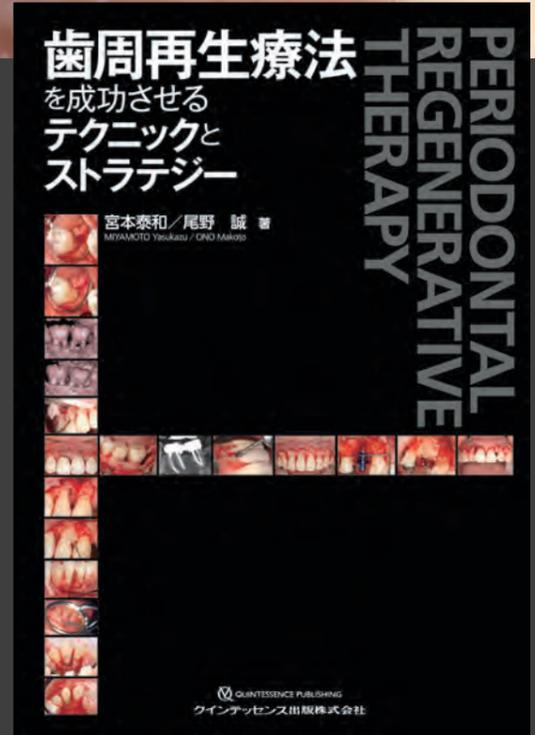
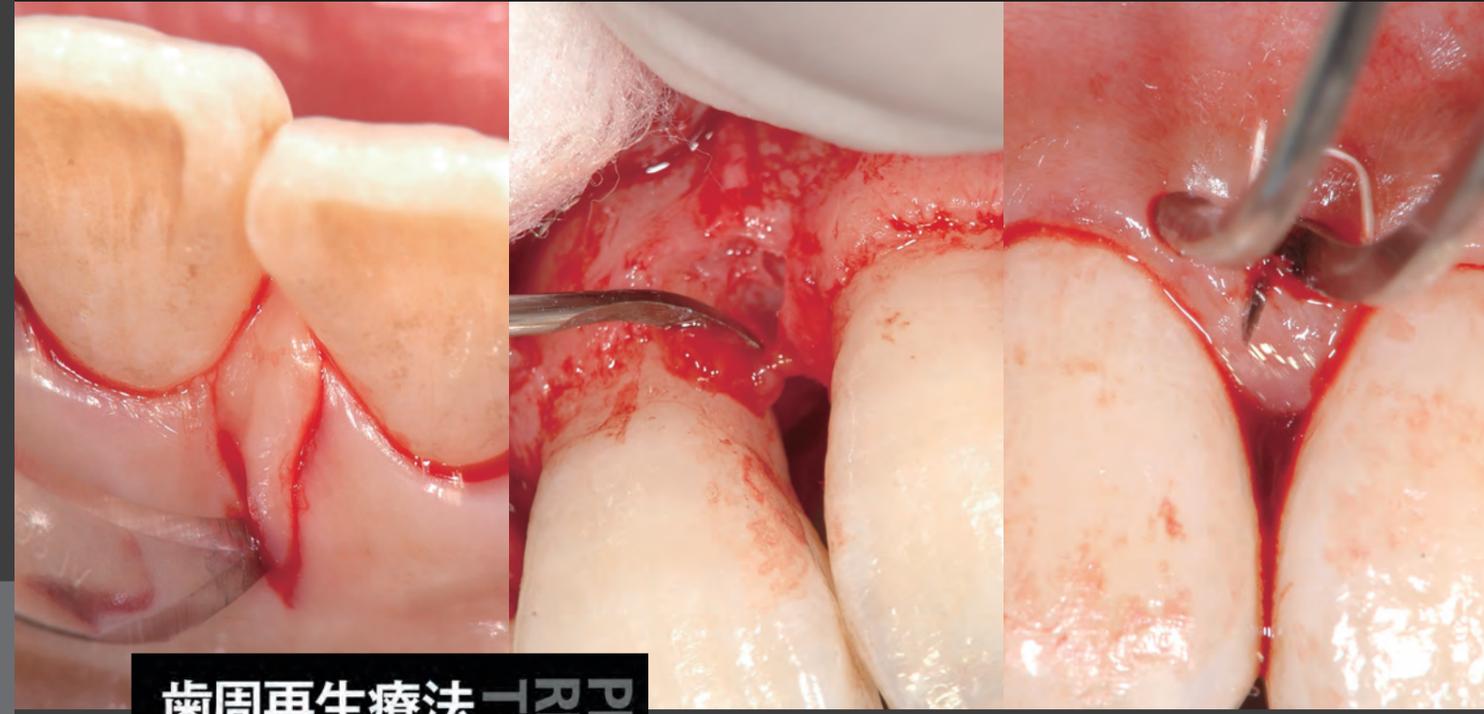
the Quintessence誌などで、再生療法のフロンティアを発表し続ける宮本泰和氏。その10~20年の長期症例とテクニックを、2,000点以上の美しい写真で解説した集大成が、ついに出版!!

# 歯周再生療法

## を成功させる テクニックと ストラテジー

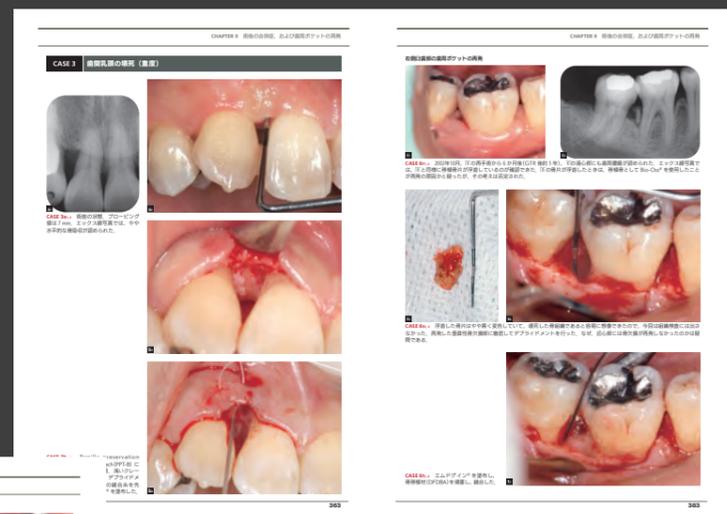
PERIODONTAL  
REGENERATIVE  
THERAPY

宮本泰和/尾野 誠・著



その歯は本当にホープレスか、  
問いなおすことになる

歯周再生療法には、科学的根拠に基づく治療の「テクニック」と「ストラテジー」が必要である。本書では10年以上の歯周再生療法の長期症例を中心に、多くの臨床写真・イラストを用いて詳細に解説を記し、その「成功の要因」「失敗の原因」などについて考察、現時点でどの治療法がもっとも「予知性の高い歯周再生療法」か検討した。その精細なテクニックはもちろん、術前・術後の管理、術後併発症への対応についても余すところなく解説。



### CHAPTER 10 FGF-2(リグロス®) を用いた歯周再生療法

本邦においては、2016年、日本発の歯周組織再生剤として塩基性線維芽細胞増殖因子(fibroblast growth factor-2: FGF-2)を応用した「リグロス®」の製造販売承認が得られ、臨床応用されている。もともとFGF-2は生体内に存在し、細胞の増殖や分化の調節を行っているタンパク質の一種であり、医科の領域では褥瘡性潰瘍における治療薬(フィブラスト® スプレー)として2001年から販売されている。まだ短期的な報告ではあるが、本項では「リグロス®」を用いた歯周再生療法の治療結果を、エムドゲイン®と比較しながら臨床的な視点で考察したい。

### CHAPTER 9 術後の合併症、 および歯周ポケットの再発

歯周再生療法を行っても、すべてのケースが首尾よく良好な結果を出せるわけではない。治療後に何らかの問題が発生する可能性がある。それらの問題は、①術後の合併症(歯間乳頭の壊死・陥没など)、②歯周ポケットの残存、③メンテナンス中の歯周ポケットの再発、に大別できる。それらの術後合併症や歯周ポケットの再発について、その原因や対処法について考察したい。



著者略歴

**宮本泰和**

1956年 京都府京都市生まれ  
1983年 岐阜歯科大学卒(現・朝日大学歯学部)  
2007年~ 朝日大学歯学部客員教授  
2008年~ JIADS理事長(2012年まで)  
2011年~ 日本臨床歯周病学会理事長(2012年まで)

所属  
日本歯周病学会会員/日本臨床歯周病学会会員/  
米国歯周病学会(AAP)会員  
主な著書 「コンセプトをもった予知性の高い歯周外科処置」(クインテッセンス出版, 2001. 共著), 「再生歯科のテクニックとサイエンス」(クインテッセンス出版, 2005. 編著)など多数。

**尾野 誠**

1986年 岐阜県山県市生まれ  
2010年 朝日大学歯学部卒業  
2011年~ 四条烏丸ペリオインプラントセンター勤務  
2018年~ JIADS ペリオコース常任講師

所属  
日本歯周病学会会員/日本臨床歯周病学会会員/  
米国歯周病学会(AAP)会員/日本口腔インプラント学会会員  
主な著書 「根面被覆 知識の整理とアップデート」(the Quintessence 2018), 「エビデンスに基づいたペリオドンタルプラスチックサージェリー」(クインテッセンス出版, 2016. 共著)など。

## 注文書 歯周再生療法を成功させるテクニックとストラテジー

モリタ商品コード:208040713 冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒 )		支店・営業所
●TEL	●FAX	

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。  
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。

